

都市再生整備計画 事後評価シート

瓜幕市街地地区

平成24年 3月

北海道鹿追町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	鹿追町		地区名	瓜幕市街地地区			面積		40ha				
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	133百万円		国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	事業名													
			道路事業：瓜幕東仲通り 地域生活基盤施設（広場）：瓜幕駅舎記念広場整備 既存建造物活用事業：うりまく夢創造館整備													
		提案事業	地域創造支援事業：避難施設整備事業（瓜幕中学校） 事業活用調査：耐震診断調査（瓜幕小学校） まちづくり活動推進事業：馬事振興事業													
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			提案事業	なし				-				-				
		新たに追加し た事業	基幹事業	なし				-				-				
	提案事業		なし				-				-					
	交付期間 の変更	当 初	平成19年度～平成23年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響				-							
変 更		-														
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み		効果発現要因 （総合所見）	フォローアップ 予定時期		
				基準年度		目標年度										
	指標1	ライディングパーク 利用者数	人／年	10,700	H17	11,800	H23		11,274	△	あり なし	● ●	口蹄疫発生によるイベント中止や、地域の 国道交通量が減少する中、指標は改善傾向 にある。広場の供用開始や外的要因の解消 によって一層の改善が見込まれる。	H25.4		
	指標2	道の駅利用者数	人／年	79,574	H18	89,000	H23		71,977	×	あり なし	● ●	口蹄疫の発生や、地域の国道交通量が減 少したことが指標に大きな影響を与えた。 施設の一部では利用者が微増の傾向を示し ており、一定の効果はあった。	H25.4		
	指標3	防災機能を強化した 施設の割合	m／人	1.4	H17	2.5	H23		3.6	○	あり なし	● ●	計画事業の実施による機能強化、耐震化 の効果である。	-		
	指標4	緑地管理参加者数	人／年	294	H17	510	H23		334	△	あり なし	● ●	植樹祭の開催など参加機会の増加によっ て若干の改善が見られ、またアンケート結 果からも意識の向上が見て取られ、一層の 改善が見込まれる。	H25.4		
3)その他の数値指標 （当初設定した数値 目標以外の指標）に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み		効果発現要因 （総合所見）	フォローアップ 予定時期		
				基準年度		目標年度										
	その他の 数値指標1	うりまく夢創造館利用者 数	人／年	-	-				274				うりまく夢創造館整備によって、地 域住民の「ものづくり」への参加機会 が増えた。	H25.4		
	その他の 数値指標2	地域住民のものづくり活 動への参加意識	%	-	-				53.3				うりまく夢創造館整備によって、地 域住民の「ものづくり」に対する興味 が強くなった。	-		
	その他の 数値指標3	道路整備による 快適性・安全性の向上	%	-	-				79.6				地域住民の安全性や快適性が向上 し、安心・安全なまちづくりの推進に 寄与した。	-		
4)定性的な効果 発現状況	・遊休施設の解消・瓜幕駅舎記念広場の用地を取得したことで、地域住民の制約が解消された。（これまでは民有地であり制約があった） ・瓜幕駅舎記念広場の整備によって、地域の歴史を後世に引き継がれていくことが期待される。・うりまく夢創造館の中には、高齢者やリタイヤされた方も多く、高齢者等の生きがいが創出された。また、子どもを対象としたものづくり教室も開催 されており、ものづくりを通した異世代交流も期待できる。															
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等					
	モニタリング	指標1～4に関するモニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					別地区（鹿追市街地地区、H23-H27）において適切にモニタリン グが実施できるように努めたいと考える。				
		住民参加 プロセス	・瓜幕駅舎記念広場整備事業に係る地域住民との意見交換会 ・うりまく夢創造館整備事業に係る地域住民との意見交換会					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					今後、他の事業を実施する場合においても、町民との意見交換 の実施に努める。			
			持続的なまちづくり 体制の構築	・瓜幕駅舎記念広場の維持管理についての協議 ・うりまく夢創造館の運営について					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					・瓜幕駅舎記念広場整備の維持管理については、今後、維持管理方法の 詳細について検討する。 ・行政側は、事務局として委員会の円滑な運営を支援、協力する。		

瓜幕市街地地区(北海道鹿追町) 都市再生整備計画事業の成果概要										
まちづくりの目標			目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 ものづくりと馬を核とした地域振興			ライディングパーク利用者数	単位：人／年	10,700	H17	11,800	H23	11,274	H23
目標1 ものづくりの拠点整備と馬を核とした地域振興と観光振興を図る。			道の駅利用者数	単位：人／年	79,574	H18	89,000	H23	71,977	H23
目標2 花、緑地整備により地域活性化を図る。			防災機能を強化した施設の割合	単位：㎡／年	1.4	H17	2.5	H23	3.6	H23
目標3 道路整備により地域住民の快適性の確保と災害に対応できる安全・安心のまちづくりを図る。			緑地管理参加者数	単位：人／年	294	H17	510	H23	334	H23
			うりまく夢創造館利用者数	単位：人／年	-	H19			274	H22
			地域住民のものづくり活動への参加意識	単位：%	-	H19			53.3	H23
			道路整備による快適性・安全性の向上	単位：%	-	H19			79.6	H23
			広場整備による環境美化意識向上	単位：%	-	H19			68.3	H23

■ 基幹事業
既存建造物活用事業
(うりまく夢創造館整備)

□ 提案事業
まちづくり活動推進事業
(馬事振興事業)

□ 提案事業
地域創造支援事業
(避難施設整備事業)

■ 基幹事業
地域生活基盤施設
(瓜幕駅舎記念広場整備)

■ 基幹事業
道路 (瓜幕東仲通り)

1 : 5,000

凡 例
■ 基幹事業
■ 提案事業
□ 関係事業

基幹事業：既存建造物活用事業
うりまく夢創造館整備

基幹事業：道路
瓜幕東仲通り整備

提案事業：まちづくり活動推進事業
馬事振興事業

まちの課題の変化	(1) 地域での新たな産業創設と活性化、観光客の確保による商店街の活性化 ■ものづくりの里については、木工を中心に各世代に保育所の幼児から女性を含め各世代に利用され、各種製作教室や自由研究課題教室などを開催するなど、地域の活性化やものづくり文化の定着に寄与している。 ■ものづくりの里、瓜幕駅舎記念広場が当該交付金によって新たに整備され、既存施設の道の駅やライディングパークなどの施設とあわせて、観光客が滞在できるような土作りはでき、観光入込客数の増加に向けた施策も各種講じられているが、ガソリン価格の高騰や交通量の減少など外的要因の影響が大きく、観光入込客数の大幅な増加までは至っていない。
	(2) 安心・安全なまちづくり ■未舗装区間の整備や機能強化を図ったことで、地域住民の快適性及び安全性が向上した。避難施設までの経路にもなっており、避難施設の強化と併せて実施したことで、相乗的に安心・安全なまちづくりが図られた。また、瓜幕駅舎記念広場の整備によって、地域の方の一時避難が可能な場所も増えた。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	(1) 効果を持続させるために行う方策 ■各種製作教室や、小中学生の夏・冬休み中の自由研究課題教室を開催し、ものづくりの拠点として多くの方々に利用していただけるように努める。また、木工製品の道の駅等での販売に向けて検討をしていく。 ■道路(歩道)及び避難施設など、年数の経過とともに現れる機能強化が必要と思われる箇所に対し、予算と優先度を勘案し、今後も継続的に実施していくことが必要である。ハード面の整備と合わせて、交通安全、防犯・防災意識の高揚などのソフト面でも、継続的に取り組んでいく。
	(2) 改善策 ■高速道路の開通や無料化社会実験の終了など、地域内の国道の交通量が増加することが予想され、町全体の観光振興やシーニックバイウェイなどの広域的な取り組みと連携し、瓜幕地域の特徴である「馬」や「小さなスケールメリット」を生かしていくことで、観光客の確保を目指す。 ■整備不良な区間や破損が著しく改良が必要な区間など住民に身近な道路の整備をきめ細かに実施し、歩行者の快適性・安全性の向上を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	瓜幕東仲通り	57	L=350m	48	L=350m	入札・設計等による事業費減	当初計画より事業費は減少しているが、事業内容は当初計画どおりであり、指標への影響はない。	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	瓜幕駅舎記念広場整備	33	A=6,000㎡	52	A=9,920㎡	事業面積及び事業内容の変更それに伴う事業費増	ライディングパーク利用者数、道の駅利用者数、緑地管理参加者数の指標に関係するが、目標数値は据え置く。	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業	うりまく夢創造館整備	42	A=246.49㎡ 鉄骨造平屋建 木造平屋建	17	A=268.57㎡ 鉄筋コンクリート ミッドランド造	事業実施箇所の変更それに伴う事業費減	当初計画より事業箇所が変更され、事業費も減少しているが、当初の事業目的どおり事業は実施されており、指標への影響はない。	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	避難施設整備事業	8	瓜幕中学校 屋上防水工事 屋外出入口改修	9	瓜幕中学校 屋上防水工事 屋外出入口改修	入札・設計等による事業費増	当初計画より事業費は増加しているが、事業内容は当初計画どおりであり、指標への影響はない。	●	
事業活用調査	耐震診断調査	2	瓜幕小学校の耐震 診断調査の実施	2	瓜幕小学校の耐震 診断調査の実施	なし	-	●	
まちづくり 活動推進事業	馬事振興事業	18	瓜幕競ばん馬大会 ホースフェスタ 全日本エンデュランス	5	瓜幕競ばん馬大会 ホースフェスタ 全日本エンデュランス	計画期間の短縮による事業費の減	ライディングパーク利用者数、道の駅利用者数の指標に関係するが、目標数値は据え置く。	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		

添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	ライディングパーク 利用者数	人／年	H22年度の「鹿追町ライディング パーク」の利用者数からH23年度の 利用者数を推計した。	-		10,700	H17	11,800	H23	モニタリング		-	モニタリング	-	●	
										事後評価	確定 見込み	● 11,274	事後評価	△		
指標2	道の駅利用者数	人／年	H22年度の「道の駅うりまく」の 利用者数からH23年度の利用者数を 推計した。「鹿追町ライディング パーク」及び「道の駅うりまく直売 所」については実測値を用い、「道の 駅内公衆トイレ」については水道 使用料から推計されるトイレ利用者 数とした。	-		79,574	H18	89,000	H23	モニタリング		-	モニタリング	-		●
										事後評価	確定 見込み	● 71,977	事後評価	×		
指標3	防災機能を強化した 施設の割合	㎡／人	計測時点において地域防災計画に 掲載された収容避難所及びそれに附 随する公共施設で十分に防災施設と しての機能を有している整備面積を 計画区域内の居住人口で割り、1人 当たりの整備面積を算出した。	-		1.4	H17	2.5	H23	モニタリング		-	モニタリング	-		
										事後評価	確定 見込み	● 3.6	事後評価	○		
指標4	緑地管理参加者数	人／年	H22年度の瓜幕市街連合行政区で の環境整備活動の参加人数を聞き取 りし(町役場瓜幕支所確認)、H23 年度の参加人数を推測した。	-		294	H17	510	H23	モニタリング		-	モニタリング	-	●	
										事後評価	確定 見込み	● 334	事後評価	△		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	H22年度においては、口蹄疫発生によるイベント中止や道東自動車道の無料化社会実験(H22.6～H23.6)によって利用者数が減少したが、それ以前までは利用者数の増加傾向にあり、事後評価時点では目標値には達しないものの改善が見られる。 道東自動車道が全面開通し、H24年度には道央圏から十勝圏・道東方面への来訪者の増加が見込まれる中、さらには、道東自動車道の無料化社会実験の終了により、十勝管内在住者や十勝管内のICで降りた来訪者の一般道の利用増加も期待できる。また、H23年11月には瓜幕駅舎記念広場が供用開始され、従来通過するだけであった方の足を止める一定の効果も期待でき、事後評価翌年度での達成が見込まれる。	
指標2	口蹄疫発生によるイベント中止や道東自動車道の無料化社会実験(H22.6～H23.6)などマイナス要因が多かったものの、「直売所」の利用者人数は近年増加傾向を示しており、また「ライディングパーク利用者数」も指標1で示すように、増加傾向を示している。 しかしながら、「トイレ利用者数」が大幅に減少しているため、道の駅利用者数の指標は従前値よりも下降している。 主な要因として、道東自動車道の延伸や無料化社会実験など近年の大幅な交通網の変化による沿線の交通量の減少が影響しているものと考えられる。 道東自動車道が全面開通し、H24年度には道央圏から十勝圏・道東方面への来訪者の増加が見込まれる中、さらには、道東自動車道の無料化社会実験の終了により、十勝管内在住者や十勝管内のICで降りた来訪者の一般道の利用増加も期待できるが、評価値と目標値との開きが大きく、事後評価翌年度での達成は難しい。	

指標3	事業計画どおり事業が実施されたことによる。 整備面積及び区域内人口に大きな変動がなかったため。	
指標4	これまでも地域住民によって緑地管理は実施されており、急激に住民負担を増加させることは難しく、指標はやや改善された程度となっている。瓜幕駅舎記念広場が整備され、H23年8月に実施した植樹祭においては80名程度が参加し、H23年9月に実施した住民アンケート調査の結果からも、「地域をきれいにしようという環境美化意識が、これまでと比べて高まった・やや高まった」という方が68.3%を占めるなど、更に一層の指標の改善が見込まれる。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	うりまく夢創造館利用 者数	人／年	H22.4.1からH23.3.31におけ る「うりまく夢創造館」の利用 者数を計測した。			-	H19	モニタリング			「うりまく夢創造館利用者 数」により、目標1の「もの づくりの拠点整備と馬を核と した地域振興と観光振興を図 る」の効果発言状況を説明す るため。(指標1、2を補 完)	・ライディングパーク利用者数 ・道の駅利用者数
								事後評価	確定 見込み	● 274		
その他の 数値指標2	地域住民のものづくり 活動への参加意識	%	計画区域内全戸を対象とし た住民アンケート調査を実 施。 事業実施前においては、ア ンケート調査を実施していな いため、事業実施前後におけ る比較が可能な設問とした。			-	H19	モニタリング			「地域住民のものづくり活 動への参加意識」により、目 標1の「ものづくりの拠点整 備と馬を核とした地域振興と 観光振興を図る」の効果発言 状況を説明するため。(指標 1、2を補完)	
								事後評価	確定 見込み	● 53.3		
その他の 数値指標3	道路整備による 快適性・安全性の向上	%	計画区域内全戸を対象とし た住民アンケート調査を実 施。 事業実施前においては、ア ンケート調査を実施していな いため、事業実施前後におけ る比較が可能な設問とした。			-	H19	モニタリング			「道路整備による快適性・ 安全性の向上」により、目標 3の「道路整備により地域住 民の快適性の確保と災害に対 応できる安全・安心のまちづ くりを図る」の効果発言状況 を説明するため。(指標3を 補完)	・防災機能を強化した施設の 割合
								事後評価	確定 見込み	● 79.6		
その他の 数値指標4	広場整備による 環境美化意識向上	%	計画区域内全戸を対象とし た住民アンケート調査を実 施。 事業実施前においては、ア ンケート調査を実施していな いため、事業実施前後におけ る比較が可能な設問とした。			-	H19	モニタリング			「広場整備による環境美化 意識向上」により、目標2の 「花、緑地整備により地域活 性化を図る」の効果発言状況 を説明するため。(指標4を 補完)	・緑地管理参加者数
								事後評価	確定 見込み	● 68.3		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・遊休施設の解消 ・瓜幕駅舎記念広場の用地を取得し広場を整備したことで、地域住民の制約が解消された。(これまでは民有地であり、制約があった) ・瓜幕駅舎記念広場の整備によって、地域の歴史を後世に引き継がれていくことが期待される。 ・うりまく夢創造館の利用者の中には、高齢者やリタイヤされた方も多く、高齢者等の生きがいが創出された。また、子どもを対象としたものづくり教室も開催されており、ものづくりを通した異世代交流も期待できる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
指標 1～4 に関するモニタリング	予定どおり実施した	● ライディングパーク利用者数、道の駅利用者数、防災機能を強化した施設の割合の3指標については、毎年度、関係資料を集計し、交付金担当部署（企画財政課）にて指標数値の把握を行った。 緑地管理参加者数については、毎年度の指標数値の把握は行っておらず、事後評価実施時に毎年度の指標数値の傾向を瓜幕支所に聞き取りし、確認するにとどまった。 いずれも外部及び町民への公表は行っていない。	別地区（鹿追市街地地区、H23-H27）において適切にモニタリングが実施できるように努めたいと考える。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
瓜幕駅舎記念広場整備事業に係る 地域住民との意見交換会	予定どおり実施した	● 実施時期：平成22年8月～平成22年11月 実施回数：4回 実施効果：地域住民と意見交換を実施し、整備計画案に反映させた。	今後、他の事業を実施する場合においても、町民との意見交換の実施に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
うりまく夢創造館整備事業に係る 地域住民との意見交換会	予定どおり実施した	● 実施時期：平成18年8月～平成19年11月 実施回数：6回 実施効果：地域住民と意見交換を実施し、整備計画案に反映させた。	〃
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
瓜幕駅舎記念広場の維持管理についての 協議	予定どおり実施した	● 地域住民と意見交換を行い、地域と行政で役割分担をしながら維持管理を行っていくように協議をした。	瓜幕市街連合行政区	今後、維持管理方法の詳細について検討する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
うりまく夢創造館の運営について	予定どおり実施した	● 地域住民との意見交換時に、行政主体ではなく地域で運営していくように働きかけた。	うりまく夢創造館運営委員会 (平成20年5月29日)	行政側は、事務局として委員会の円滑な運営を支援・協力する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討会議	企画財政課、建設水道課、商工観光課 学校教育課、瓜幕支所	各事業担当課と意見交換を実施 平成23年11月 4日 企画財政課事後評価原案回付 平成23年11月11日 検討会議の開催（1回）	企画財政課企画開発係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3		指標4		その他の数値指標1	
指 標 名		ライディングパーク利用者数		防災機能を強化した施設の割合		緑地管理参加者数		うりまく夢創造館利用者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】瓜幕東仲通り	-	口蹄疫発生によるイベント中止や、道東自動車道の無料化社会実験等の影響による瓜幕地域の国道交通量の減少が推測される（無料化13ヶ月間のうち12ヶ月間で、道の駅トイレの利用者数が前年割れ）中、馬事振興事業の実施によるライディングパークのPRや近隣施設（うりまく夢創造館）の整備によって、指標は改善傾向にある。	○	瓜幕中学校の屋上防水工事及び非常口落雪防護屋根の新設工事を実施したことによる効果である。	-	花と芝生のまちづくりの推進によって、地域住民の緑地管理参加は定着し、また広場整備に伴う植樹祭の開催によって、参加機会が増加し、指標の若干の改善が見られた。	-	うりまく夢創造館整備によって、地域住民の「ものづくり活動」への参加機会が増加し、子どもから大人まで各世代が参加可能な各種教室も開かれるなど地域の活性化に寄与している。
	【地域生活基盤施設】瓜幕駅舎記念広場整備	○		-	当該交付金で瓜幕小学校の耐震診断調査を実施、「安心・安全の学校づくり交付金」で耐震改修工事を行っており、耐震診断調査は間接的に指標に貢献したものである。	◎		-	
	【地域生活基盤施設】うりまく夢創造館整備	○		-		-		◎	
提案事業	【地域創造支援事業】避難施設整備事業	-		◎		-		-	計画策定段階では、目標数値は設定していないが、年間300名程度に利用されている。
	【事業活用調査】耐震診断調査	-		○		-		-	また、アンケート結果からも15%の方が「利用したことがある」、38%の方が「利用したいと思う」と回答しており、今後の利用者数の増加が期待できるとともに、ものづくりを通じた異世代交流の促進も期待できる。
	【まちづくり活動推進事業】馬事振興事業	◎		-		-		-	
関連事業			瓜幕駅舎記念広場の整備が完了し、H23年11月に供用が開始されたことや、無料化社会実験などの外的要因の解消によって、一層の改善が見込まれるものである。						

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	道の駅、ライディングパーク、うりまく夢創造館、瓜幕駅舎記念広場など、各種施設の魅力を発信し、地域外の町民や観光客が周遊するような環境づくりを目指す。	道路整備や施設整備など必要なハード事業の実施とともに、地域住民とでのソフト面からも安心・安全なまちづくりを目指していく。	行政と地域住民が役割を分担しながら、「地域の広場」を維持管理していき、「花と芝生のまちづくり」の推進を図っていく。	うりまく夢創造館運営委員会が中心となり、地域の「ものづくり活動」の定着を図っていく。
-------	--	--	---	--

添付様式4ー② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標2		その他の数値指標3		その他の数値指標4			
指標名		地域住民のものづくり活動への参加意識		道路整備による快適性・安全性の向上		広場整備による環境美化意識向上			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】瓜幕東仲通り	-	うりまく夢創造館整備によって、地域住民の「ものづくり活動」に対する興味は若干ではあるが強くなっており、今後一層の利用促進を図っていくことで瓜幕地区の地域活性化に寄与することが期待される。	◎	瓜幕東仲通りの整備によって、地域住民の安全性や快適性が向上しており、安心・安全なまちづくりの推進に寄与している。	-	瓜幕駅舎記念広場の整備によって、緑地管理参加者数が微増し、また、68.3%の方の環境美化意識が向上しており（アンケート結果より）、今後の緑地管理への地域住民の積極的な参加が期待される。		
	【地域生活基盤施設】瓜幕駅舎記念広場整備	-		-		◎			
	【地域生活基盤施設】うりまく夢創造館整備	◎		-		-			
提案事業	【地域創造支援事業】避難施設整備事業	-		-		-			
	【事業活用調査】耐震診断調査	-		-		-			
	【まちづくり活動推進事業】馬事振興事業	-		-		-			
関連事業									

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	うりまく夢創造館運営委員会 が中心となり、地域の「もの づくり活動」の定着を図ってい く。	道路整備や施設整備など必要 なハード事業の実施とともに、 地域住民とでのソフト面からも 安心・安全なまちづくりを目指 していく。	地域住民の環境美化意識の向 上を、緑地管理など「花と芝生 のまちづくり」に結び付けてい く。	
-------	--	--	---	--

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			指標			指標			指標		
指 標 名		道の駅利用者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【道路】瓜幕東仲通り	-	口蹄疫の発生や、道東自動車道の無料化社会実験等の外的な要因によって、瓜幕地域の国道交通量の減少し、指標に大きな影響を与えたと考えられる。直売所及びライディングパーク利用者数については、微増の傾向を示しており、一定の効果は伺える。	分類Ⅲ									
	【地域生活基盤施設】瓜幕駅舎記念広場整備	△											
	【地域生活基盤施設】うりまく夢創造館整備	△											
提案事業	【地域創造支援事業】避難施設整備事業	-											
	【事業活用調査】耐震診断調査	-											
	【まちづくり活動推進事業】馬事振興事業	△											
関連事業													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	道東自動車道が全面開通し、道央圏から十勝圏・道東方面への来訪者の増加が見込まれる中、さらには、道東自動車道の無料化社会実験の終了により、十勝管内在住者や十勝管内のＩＣで降りた来訪者の一般道の利用増加も期待できる。 ライディングパーク、うりまく夢創造館、瓜幕駅舎記念広場など、各種施設の魅力を発信し、地域外の町民や観光客が周遊するような環境づくりを目指し、増大した交通量を確実に集客増に結び付けていく取り組みを検討していく。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討会議	企画財政課、建設水道課、商工観光課 学校教育課、瓜幕支所	各事業担当課と意見交換を実施 平成23年11月 4日 企画財政課事後評価原案回付 平成23年11月11日 検討会議の開催（1回）	企画財政課企画開発係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域での新たな産業創設 地域の特産品として活性化	うりまく夢創造館については、木工を中心に保育所の幼児から女性を含め各世代に利用され、各種製作教室や自由研究課題教室などを開催するなど、地域の活性化やものづくり文化の定着に寄与している。		
滞在する観光客の確保による商店街の活性化	うりまく夢創造館、瓜幕駅舎記念広場が当該交付金によって新たに整備され、既存施設の道の駅やライディングパークなどの施設とあわせて、観光客が滞在できるような土台作りはできた。	観光入込客数の増加に向けた施策は各種講じられているが、ガソリン価格の高騰や交通量の減少など外的要因の影響が大きく、観光入込客数の大幅な増加までは至っていない。	
歩道・道路の改修による通学時の快適性・安全性の確保	未舗装区間の整備や機能強化を図ったことで、地域住民の快適性及び安全性が向上した。避難施設までの経路にもなっており、避難施設の強化と併せて実施したことで、相乗的に安心・安全なまちづくりが図られた。	計画期間内に予定された事業は全て実施されたものの、町内道路の整備不良区間や破損箇所などの改良・改修を引き続き実施し、町民の快適性と安全性の向上を図る必要がある。	
安全で安心な避難施設の確保	防災計画に記載された避難施設の整備が進み、災害時における住民の安全性が向上した。道路の未舗装区間の整備や機能強化を実施したことで、避難施設までのアクセス向上が図られ、相乗的に安心・安全のまちづくりが図られた。 また、瓜幕駅舎記念広場の整備によって、地域の方の一時避難が可能な場所も増えた。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	ものづくりの推進	各種製作教室や、小中学生の夏・冬休み中の自由研究課題教室を開催し、ものづくりの拠点として多くの方々に利用していただけるように努める。また、木工製品の道の駅等での販売に向けて検討をしていく。	・うりまく夢創造館の利用促進、教室充実に向けた検討 ・木工製品販売に向けた検討
	安心・安全なまちづくり	道路（歩道）及び避難施設など、年数の経過とともに現れる機能強化が必要と思われる箇所に対し、予算と優先度を勘案し、今後も継続的に実施していくことが必要である。ハード面の整備と合わせて、交通安全、防犯・防災意識の高揚などのソフト面でも、継続的に取り組んでいく。	・避難施設及び避難経路の計画的な機能強化の検討 ・地域防災計画の見直し及び周知

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	滞在する観光客の確保	高速道路の開通や無料化社会実験の終了など、地域内の国道の交通量が増加することが予想され、町全体の観光振興やシーニックバイウェイなどの広域的な取り組みと連携し、瓜幕地域の特徴である「馬」や「小さなスケールメリット」を生かしていくことで、観光客の確保を目指す。	・各施設の利用促進策の検討 ・施設間連携による「地域内周遊」に向けた方策検討
	歩行者の快適性・安全性の確保	整備不良な区間や破損が著しく改良が必要な区間など住民に身近な道路の整備をきめ細かに実施し、歩行者の快適性・安全性の向上を図る。	・道路（歩道）の計画的な機能強化の実施
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4ー②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4ー③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5ー②）を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・観光入込客数は近年の経済情勢（景気、震災、ガソリン高騰）、交通情勢（高速道路延伸、無料化）、気象条件（週末の天候など）に左右されるところが大きいのが実際のところ。
- ・観光入込客数という「量」をただ求めるのではなく、コアな鹿追ファンという「質」を求めていることも重要。
- ・うりまく夢創造館の作品の販売を考えると「売れる物」と「良い物」は違うという認識も必要。
- ・今後は、一層「防災教育」の観点が重要になってくる。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			従前値		目標値		評価値			目標 達成度	1年以内の 達成見込みの 有無	
		単位		年度		年度						
指標1	ライディング パーク利用者数	人／年	10,700	H17	11,800	H23	確定 見込み	●	11,274	△	あり なし	●
指標2	道の駅利用者数	人／年	79,574	H18	89,000	H23	確定 見込み	●	71,977	×	あり なし	●
指標3	防災機能を強化 した施設の割合	人／㎡	1.4	H17	2.5	H23	確定 見込み	●	3.6	○	あり なし	
指標4	緑地管理参加者 数	人／年	294	H17	510	H23	確定 見込み	●	334	△	あり なし	●

その他の数値指標1	うりまく夢創造館利用者数	人／年	0	H19			確定 見込み	●	274			
その他の数値指標2	地域住民のもののづくり活動への参加意識	%	0	H19			確定 見込み	●	53.3			
その他の数値指標3	道路整備による快適性・安全性の向上	%	0	H19			確定 見込み	●	79.6			
その他の数値指標4	広場整備による環境美化意識向上	%	0	H19			確定 見込み	●	68.3			

フォローアップ計画		
予定時期	計測方法	その他特記事項
H25.4	従前値の算出と同様の手法によりH24年度のライディングパーク利用者数を計測し、確定値とする。	瓜幕駅舎記念広場供用開始後1年間の指標を計測する。
H25.4	従前値の算出と同様の手法によりH24年度の道の駅利用者数を計測し、確定値とする。	瓜幕駅舎記念広場供用開始後1年間の指標を計測する。
H25.4	従前値の算出と同様の手法によりH24年度の緑地管理参加者数を計測し、確定値とする。	瓜幕駅舎記念広場供用開始後1年間の指標を計測する。

H25.4	事後評価時の評価値の算出と同様の手法によりH24年度のうりまく夢創造館利用者数を計測し、確定値とする。	瓜幕駅舎記念広場供用開始後1年間の指標を計測する。

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点		モニタリングや指標の数値の確認を適宜実施し、数値目標の見直しも含めて検討する。
	うまくいかなかった点	数値目標を達成できていない指標が多く、外的要因の影響が大きかったとはいえ、数値目標の設定方法が適正であったか検討が必要と考える。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点		各事業と指標の関連性を事前に十分に確認する必要がある。
	うまくいかなかった点	道路整備事業の効果を直接的に表す指標が設定されていなかったため、当初設定された指標だけでは、事後評価が困難となった。	
住民参加・情報公開	うまくいった点	事業の実施にあたり、町民との意見交換会を開催し、地域住民の意見を十分に聞きながら事業を実施していくことができた。	適切な時期にモニタリングを実施し、目標数値の適正化を図るとともに、適宜公表に努める。
	うまくいかなかった点	モニタリングが実施できなかったことで、適切な時期に計画の進捗状況の公表ができなかった。	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点		各年度の評価値の把握や適切な計画管理に努め、PDCAサイクルにより事業評価・事業実施を行っていく。
	うまくいかなかった点	モニタリングの実施など、各年度での都市再生整備計画におけるPDCAサイクルは不十分であり、5ヵ年の計画期間における大きなPDCAサイクルになってしまった。	
その他	うまくいった点	アンケート調査を行ったことで、事業実施内容を改めて地域住民に周知できたとともに、地域住民の意向を確認することができた。	今後も、町民の意向を確認する手段として、適宜アンケートを活用していく。
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

■ 交付金の活用予定 平成23年度～平成27年度において、当町の鹿追市街地地区で活用予定
■ 事後評価の予定 平成27年度又は平成28年度に鹿追市街地地区において事後評価を実施予定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成23年11月16日（水）から 平成23年11月30日（水）まで	平成23年11月16日（水）から 平成23年11月30日（水）まで	担当課へ郵送 FAX E-mailなど	企画財政課 （交付金担当課）
広報掲載・回覧・個別配布	町の広報紙にて事後評価及び事業概要を掲載し、ホームページでの公開及び窓口での閲覧を周知	広報しかおい11月号 （平成23年10月25日発行）			
説明会・ワークショップ					
その他	企画財政課、瓜幕支所窓口にて閲覧	平成23年11月16日（水）から 平成23年11月30日（水）まで	平成23年11月16日（水）から 平成23年11月30日（水）まで		

住民の意見	意見募集期間中(H23.11.16～H23.11.30)の意見提出 0件
	※参考：事後評価アンケート実施時(H23.9.26～H23.10.21)の意見 11件 (瓜幕駅舎記念広場に関するもの) ・瓜幕駅舎記念広場の利用目的の中に、キャッチボールやそり遊びとありましたが、道路と面している広場なので、子どもがボールを追いかけて道路に飛び出さないよう、柵・フェンス等を設置してもらいたい。 ・瓜幕駅舎記念広場に柵を設置して欲しいです。(ボール遊びなどをする際の安全を考えて) ・広場に、子どもの遊ぶ遊具が欲しい。 ・瓜幕駅舎前公園に子ども達を対象とした遊具や自由広場があればと思います。 ・鹿追の拓殖バス横に設置されているSLを瓜幕駅舎記念広場に設置すれば、車を停めて利用される方が増えると思います。 ・子どもの遊び場が欲しい。 (瓜幕東仲通りに関するもの) ・歩きやすいです。 (事業全般) ・これからも瓜幕地区の環境整備よろしくお願いします。私も協力していきたいと思います。 (その他意見) ・同じ地区に住む者として、もっと地域の行事に参加できればと思うのですが、酪農関係の仕事についているため、あまりこれらに関しての事に協力できなくてすいません。 ・年ですから、別に何も分かりません。 ・あまり関係ないかもしれませんが、保育園児が乗馬体験に行くときなどに、うりめんの前に信号と横断歩道がありますが、それより北にはありません。プールなどからウリマックホールや中学校脇から道の駅などにも横断歩道があるといいなと思います。国道なので増やすのは難しいのかな？

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	津久井 寛 (帯広大谷短期大学生活科学科教授)	平成23年10月 6日 (第1回) 平成23年12月21日 (第2回)	企画財政課 (交付金担当課)	鹿追町都市再生整備計画 事後評価委員会設置要綱	-
その他の委員	今川 四郎 (鹿戦会会長、鹿追町パークゴルフ協会会長) 林 正信 (鹿追町商工会経営指導員)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・アンケートの実施は前向きなことで評価できる。町民から批判的な意見もあるかもしれないが、今後の参考となる。 ・事後評価の方法については、特段意見なし。
	成果の評価	・道の駅利用者数の目標達成度が×となっているが、79,574人(H18)→89,000人(H23)という目標設定が過大だったのではないかと。 ・定性的な効果発言状況では、ものづくりの里整備によって、ものづくりを通じた異世代交流なども生まれるのではないかと。
	実施過程の評価	・瓜幕駅舎記念広場の維持管理について協議されているが、今後益々、地域住民の高齢化が進むと思われるので、町全体の「町民との協働」にあり方とともに検討が必要になってくると思う。
	効果発現要因の整理	・道の駅、ライディングパークの利用者数が目標に達していない要因として、高速道路の無料化社会実験の影響が特筆されているが、口蹄疫の発生によるイベントの中止なども大きな要因となっているので、付け加えてはどうか。
	事後評価原案の公表の妥当性	・アンケート、広報での周知自体は評価できるが、広報紙での表現の仕方が役所的と感じる。この表現の仕方では紙面を読んでも町民も正直少ないのではないかとと思う。
	その他	・アンケートの実施自体は前向きで評価できることであるが、回答者の属性等も項目に入れることで、より適切なフィードバックができてのではないかとと思う。また、回収率を上げるための余地はまだ残されていると思うので、今後工夫してもらいたい。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	概ね妥当。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・未解決の課題を解消するための改善策として「各施設の利用促進策」の検討と記載されているが、冬期間の観光対策を検討していくべき。しかりべつコタンの時期には来訪者が増えるが、その来訪者をその他の観光施設利用に結び付けられていない。 ・うりまく夢創造館という施設を生かして、芸術家に移住してもらうことで、木工品の指導・販売という地域振興を図ることもできるのではないかと。
	フォローアップ	特段意見なし。
	その他	特段意見なし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	概ね妥当。
その他		・アンケートで寄せられた意見・要望に対して、何らかの形で回答していくべきと思う。協働のまちづくりを進めていく上で重要なことと思う。

都市再生整備計画(第4回変更)

うりまくし が い ち ち く
瓜幕市街地地区

ほっかいどうしかおいちょう
北海道鹿追町

平成23年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	しかおいちよう 鹿追町	地区名	うりまくし が い ち ち く 瓜幕市街地地区	面積	40 ha
計画期間	平成19年度～平成23年度	交付期間	平成19年度～平成23年度				

目標

- 大目標 ものづくりと馬を核とした地域振興
- 目標1 ものづくりの拠点整備と馬を核とした地域振興と観光振興を図る。
- 目標2 花、緑地整備により地域活性化を図る。
- 目標3 道路整備により地域住民の快適性の確保と災害に対応できる安全・安心のまちづくりを図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・瓜幕地域は、鹿追市街地地区から北に約10kmに位置し、市街地中心部を国道274号線が縦断し、然別湖の玄関口にありますが、大型バスや個人観光客は通過するだけとなっている。
- ・ものづくりと馬（ライディングパーク）を核に、地域活性化と滞在型観光客の増加を実現するため、地域住民を主体とし行政と協働のもと市街地、農村部の振興に努めている。
- ・この地区周辺には地場産品を使ったレストラン、体験農場、チーズ工房などが点在していますが、瓜幕市街地への観光客の入込が少ない状況となっている。
- ・地区周辺は農業地帯であり、これ以外の産業はなく地区内での新規事業の必要性が高まっている。
- ・近年、大規模な地震が発生し甚大な被害が発生しており、これに対処するため公共施設を避難場所に指定していますが、施設の老朽化が進み緊急時の安全・安心の確保が十分にできない状況にある。

課題

- ・地域での新たな産業創設を行い、地域の特産品として活性化を図る必要がある。
- ・道道から国道に昇格し、交通量は増加したが、街中での散策など滞在する観光客の確保により、商店街の活性化を図る必要がある。
- ・地域の中心部を国道が縦断していることにより、歩道の改修を実施して保育園児、小・中学生の通学時の快適性と安全性の確保を図る必要がある。
- ・災害に強いまちづくりのため、安全で安心な避難施設の確保を図る必要がある。

将来ビジョン（中長期）

- ・活きて（経済の発展）生きる（福祉の増進）まちづくりとして、鹿追町総合計画の中の基本構想で①「活力と魅力ある産業づくり」、②「自然と調和した循環型生活環境づくり」、③「ゆとりとうるおいのある土地利用と自然環境づくり」を柱として、活気あふれる商工業、自然と農村を生かした心のふれあえる観光、安全で住みよい暮らし、ものづくり活動への支援を推進することとしている。
- ・乗馬観光により瓜幕地域振興を図り、滞在・交流型観光の推進をすることとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
ライディングパーク利用者数	人/年	ライディングパークの利用者数	従来通過するだけのあったものから、ライディングパークを核として滞在・交流型へ移行し、利用者の10%増を目指す。	10,700人	H17	11,800人	H23
道の駅利用者数	人/年	うりまく道の駅年間利用者数	平成17年度に道の駅に指定され、18年度から本格的に移動しており利用者の12%増を目指す。	79,574人	H18	89,000人	H23
防災機能を強化した施設の割合	m ² /人	避難施設の防災機能強化、整備した面積	災害に強い安全で安心なまちづくりを図り、機能強化した施設の80%増を目指す。	1.4m ²	H17	2.5m ²	H23
緑地管理参加者数	人/年	公共緑地管理作業の参加者数	地域住民のコミュニティ活動として公共緑地の管理を実施し、73%の参加者増を目指す。	294人	H17	510人	H23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	
整備方針1 (ものづくり拠点整備、馬による地域振興と観光振興) ・地域産業振興のため、ものづくりの拠点整備と馬(ライディングパーク)を核として、観光客の滞在・交流を図る。	方針に合致する主要な事業 既存建造物活用事業(基幹事業／町)うりまく夢創造館整備 まちづくり活動推進事業(提案事業／民間団体)馬事振興事業
整備方針2 (花、緑地整備による地域活性化) ・街中の賑わいや活性化のため花と芝生、樹木等で環境整備し、地域振興を図る。	地域生活基盤施設(基幹事業／町)瓜幕駅舎記念広場整備
整備方針3 (交通安全、歩行者の快適性の向上と災害に強い安全・安心のまちづくり) ・未改良道路の改修により、歩行者の快適性の向上を図り、中心市街地・学校へのアクセスの改善を図り、また、地震などの災害はいつ起きるかわからず、常に万全の体制でなければ対応できない。少子高齢化により高齢者も徐々に増加しており、避難場所として指定されている施設の整備を行い、安全・安心な場の確保を図る。	道路整備事業(基幹事業／町)瓜幕東仲通り道路改修 地域創造支援事業(提案事業/町)避難施設整備事業
その他	
○事業終了後の継続的なまちづくり活動	
・本町では鹿追町商店街近代化推進協議会を昭和60年に設立、また、鹿追町「花と芝生の町づくり」推進協議会を平成12年度に設立し、町内商店街の活性化や振興を図っており、今後も引き続きまちづくり活動の中心的組織として、これまでの事業実績を踏まえ、住民や行政と協力しながら「協働のまちづくり」を更に推進する。	
○交付期間中の計画の管理について	
・交付期間中において各種の事業を円滑に進めるため、目標に向けて確実な効果を上げるために、町と鹿追町商店街近代化推進協議会、瓜幕市街地区連合会が協働して、事業成果について評価や事業の進め方の改善を行うためのモニタリングを実施し、その結果を随時町民に情報公開する。	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	133.0	交付限度額	53.2	国費率	0.4
---------	-------	-------	------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業	事業	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
	道路	瓜幕東仲通り	鹿追町	直	L=350m	H20	H21	H20	H21	48	48	48		48
	公園													
	河川													
	下水道													
	駐車場有効利用システム	—			—									
	地域生活基盤施設	瓜幕駅舎記念広場整備	鹿追町	直	—	H22	H23	H22	H23	52	52	52		52
	高質空間形成施設	—			—									
	高次都市施設	—			—									
	既存建造物活用事業	うりまく夢創造館	鹿追町	直	—	H19	H20	H19	H20	17	17	17		17
	都市再生交通拠点整備事業													
	土地区画整理事業													
	市街地再開発事業													
	住宅街区整備事業													
	地区再開発事業													
	人にやさしいまちづくり事業													
	優良建築物等整備事業													
	住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型												
沿道等整備型														
密集住宅市街地整備型														
耐震改修促進型														
	街なみ環境整備事業													
	住宅地区改良事業等													
	都心共同住宅供給事業													
	公営住宅等整備													
	都市再生住宅等整備													
	防災街区整備事業													
	合計									117	117	117	0	117

• A

提案事業	事業 細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	交付期間内		交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
地域創造 支援事業	避難施設整備事業	瓜幕中学校	鹿追町	直	－	H20	H20	H20	H20	9	9	9		9
	事業活用調査	耐震診断調査	瓜幕小学校	直		H19	H19	H19	H19	2	2	2		0
まちづくり活 動推進事業	馬事振興事業	瓜幕市街地地区	馬事振興実行委員会	間	－	H19	H20	H19	H20	18	18	5	13	5
					－									0
					－									0
					－									0
合計										29	29	16	13	16

•B

[illegible]